

巻・頭・言

BCP (事業継続計画) 訓練を通して

地震等の災害が発生した際に建設会社は、公共インフラの迅速な復旧、施工中の工事現場における二次災害の防止と早期再開、顧客の建物や土木構造物の被災状況調査と復旧支援等を通じて、地域住民の安全や都市機能の回復に貢献することが期待されています。そのため、建設会社そのものが災害リスクに強く、災害時に事業継続可能な体質を備えていることが必要とされます。

これらも踏まえ私の会社では、災害時に重要業務が中断しないように日頃から準備し、また、万一事業活動が中断した場合でも、許容時間内に重要な機能を再開させ、重要業務中断によるリスクを最小限に抑えるよう BCP (事業継続計画 (Business continuity planning)) を策定しています。

先日、社内において当該 BCP の訓練を実施しました。毎年、防災の日 (9月1日) の近くに実施し、今年で5回目となりましたが、私自身については職務変更に伴う初めての経験となり、しかも、災害対策本部長として全体を統括するという重要な立場で活動することとなりました。

今回の訓練の大まかな流れは以下の通りです。

- (STEP1) 地震発生・地震一時収束の周知 (放送) → 行動開始 → 被災者の確認及び報告
- (STEP2) 安否確認システムの稼働 → 災害対策本部の設置 → 社員の安否確認開始
- (STEP3) 本社及び各支店との連絡 → 社員の安否確認状況の集計と報告 → 被災状況の確認と報告 → 事務所内の復旧と二次災害発生の防止 → 重要関係先への連絡と要請事項の確認 → 種々フォロー作業
- (STEP4) 社員の安否確認と報告 (複数回継続) →

岩田 徳夫 (いわた とくお)
技術士 (建設 / 総合技術監理部門)

公益社団法人
日本技術士会北海道本部
社会活動委員会委員長



被災状況の報告 (複数回継続) → その他
随時報告 → 本社への報告

(STEP5) 訓練終了

訓練を終えて、文字と図表等で策定された BCP の実態が「見える化」でき、頭の中でイメージできたことが、まずもって一番の収穫でした。

私自身、技術士総合技術監理部門の資格取得準備の過程において、危機管理、リスクマネジメント等について机上では学んだ訳ですが、これらのことが実践でどのように運用されて、どのような課題、問題点があるのかを、今回の訓練を通じて体験できたことは大変意義深いものでした。

いずれにしても大切なことは、いつの時代でも日頃からの備えであることには変わりありません。備品、行動マニュアル、重要顧客リスト、緊急時の役割分担等を整備することだけにとどまらず、組織に所属する一人ひとりが当事者意識を持って積極的に関与すること、そして、定期的、継続的に訓練を行って、災害、防災等に対する意識を喚起することが何よりも大切であると痛感しています。

自分の会社を守るだけでなく、公益を確保し、顧客との信頼関係をより確実なものとするために BCP を策定すること、そして策定後には訓練やメンテ等を継続的に行っていくことがとても大切になります。

今回の訓練を通して、BCP の策定、運用においては、技術士のもつ知識、経験、技術力、さらには高い見識と倫理観が必要とされることを確信しました。

当該分野においても、各方面の技術士の皆様が、今後益々活躍されますことを期待いたします。